

名古屋の 古代道路 を追う

… 1300 年前の「東海道」 …

なごや古道街角案内人 池田 誠一

● はじめに

… 「古代」と言っても いつごろの時代？

- ・「古代」という時代
- ・古道の「初・中・上」

時代区分

| 古 代 | 中 世 | 近 世 | 近 代 |
|-------|-------|------|----------|
| 1160 | 1568 | 1867 | |
| 1192 | 1603 | 1868 | |
| 奈良 平安 | 鎌倉 室町 | 江戸 | 明治・大正・昭和 |

1 古代道路 とは

… そんな時代に 全国に道路網が あった？

○ 「五畿 七道」 … 全国を区分

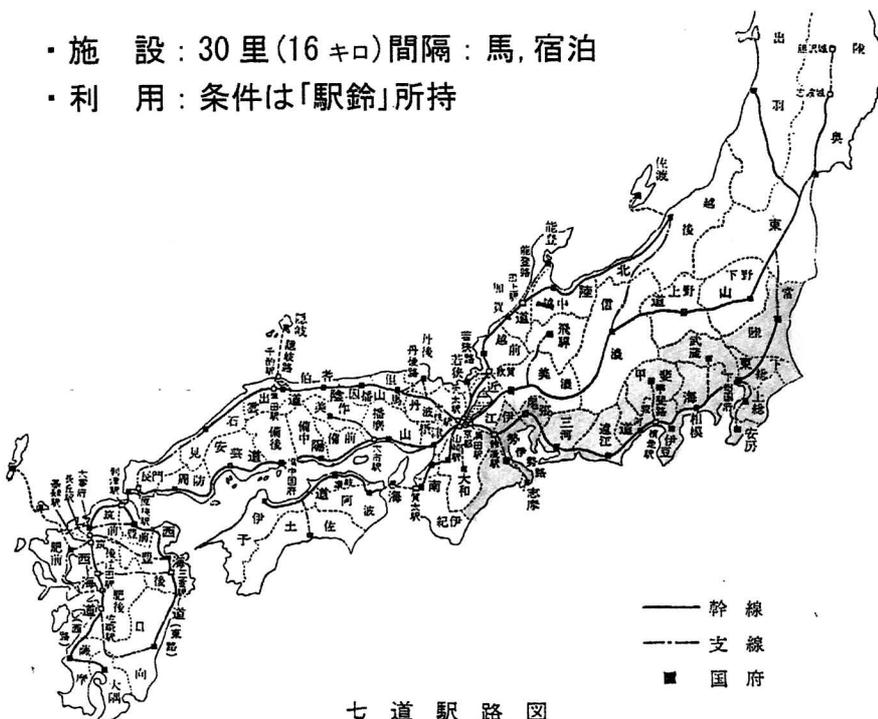
- ・五 畿：「都」の近くの国：山背・河内・和泉・摂津・大和
- ・七 道：全国を放射状に：山陽・東山^{15 国}・東海・南海・西海・山陰・北陸

* なぜ「放射状」？ → 「交通」ではなく「通信」

* なぜ道路を指すか？ → 「地域」から「駅路」へ

○ 「駅家(うまや)」

- ・施 設：30 里(16 キロ)間隔：馬, 宿泊
- ・利 用：条件は「駅鈴」所持



七道 駅路 図

日本書紀

は、皆鈴・伝符の剋の教に依れ。凡そ諸国及び関には、鈴契給ふ。凡そ駅馬・伝馬給ふこと

初めて京師を脩め、畿内国 司・郡 司・関塞・斥候・防人・駅馬・伝馬を置き、鈴契を造り、山河を定めよ。凡そ京には坊毎に長一人を置き。

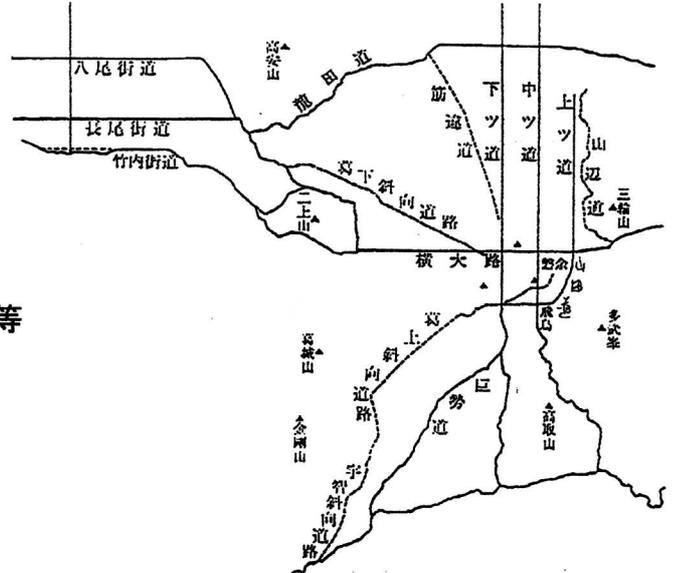
2 古代道路の発見

… 地中から、立派な計画道路が出現！

○ 奈良の古道

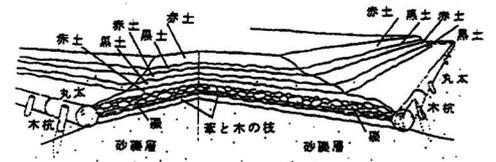
- ・ 山の辺の道：最古の道といわれるが…
- ・ 竹内街道：難波と飛鳥を結ぶ街道
- ・ 計画道路：横大路
上ツ道、中ツ道、下ツ道

* 「計画道路」とは → 都市内道路、高速道路 等



○ 全国で調査

- ・ 発見：1970年代 全国で出土
- ・ 調査：1974年から全国で調査
- ・ 学際：「考古学」と「歴史地理学」
- ・ 学会：古代交通研究会が発足



○ 大きな特徴

① 線形：直線

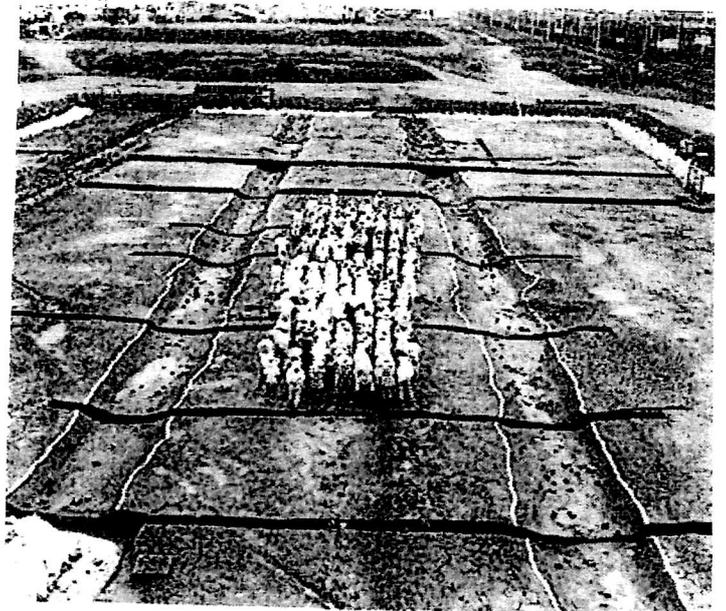
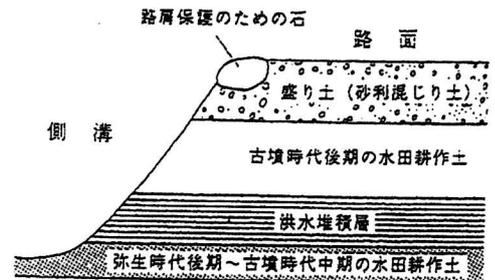
- ・ 平坦地は、まっすぐに
- ・ 長い例では、16キロも

② 幅員：広幅員

- ・ 幅員は、12m(溝中心)
- ・ 奈良では、もっと広く

③ 構造：地域に合わせ

- ・ 排水や、路肩の対策



* 近県での出土は、静岡の『曲金北遺跡』 →

- ・ 東静岡駅 国鉄基地の跡
- ・ 幅 12m、長さ 350m

3 名古屋付近の東海道

… 名古屋でも、近年、古代道路跡を発見!

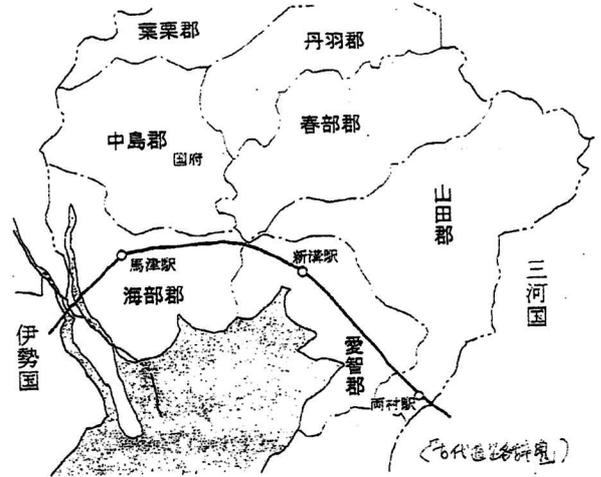
○ 尾張国の東海道

- ・ 延喜式(927年頃)：馬津駅、新溝駅、両村駅
- ・ 和名抄(10世紀中頃)：愛智郡、山田郡 に

○ 従来認識

- ・ 新溝駅の候補：①古渡、②岩倉、③押切

* 古渡付近：多くの遺跡が発掘され「本命」



○ 二つの発見

① 木下 良 <国学院大 古代交通研究会 会長>

「ルート」の発見 中村—露橋—御器所

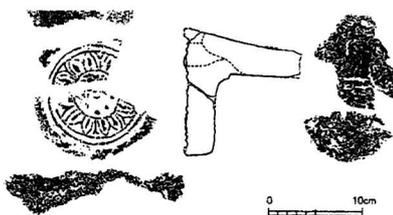
- ・ 平成10年、春日井シンポジウムで発表
- ・ 明治21年の地図で直線道路を発見 →
- ・ 明治17年の地籍図で道幅も推定
- ・ 市西北部3.5kmから東南部に2.5km



② 梶山 勝 <名古屋市博物館 学芸員>

「駅家」の発見 両村駅

- ・ 平成12年、過去に発掘の瓦を分析
- ・ 当時の瓦葺きは、寺か役所(駅家)
- ・ 出土地は豊明市上高根の行者堂
- ・ 付近に古寺はなく、駅家の可能性
- ・ 山陽道の駅家の瓦と同等と分析



* これら二つの発見が、名古屋の古代道路の推理を可能にした

4 名古屋の古代道ルートを追及

… その道跡を通して名古屋の古代が見える！

○ 二つの発見の「確認」と「延長」

③ 「萱津渡」の確認

- ・ 835年の太政官符に渡しの記述がある
- ・ 「萱津渡」は現在の萱津付近
- ・ 庄内川と五条川の合流地点になる
- ・ 当時の五条川は木曾川の大きな支流

④ 北部の直線の確認

○ 現在地の確認 … W型の道路をさがせ

- ・ 柳街道にあった!(黄金中学運動場?)

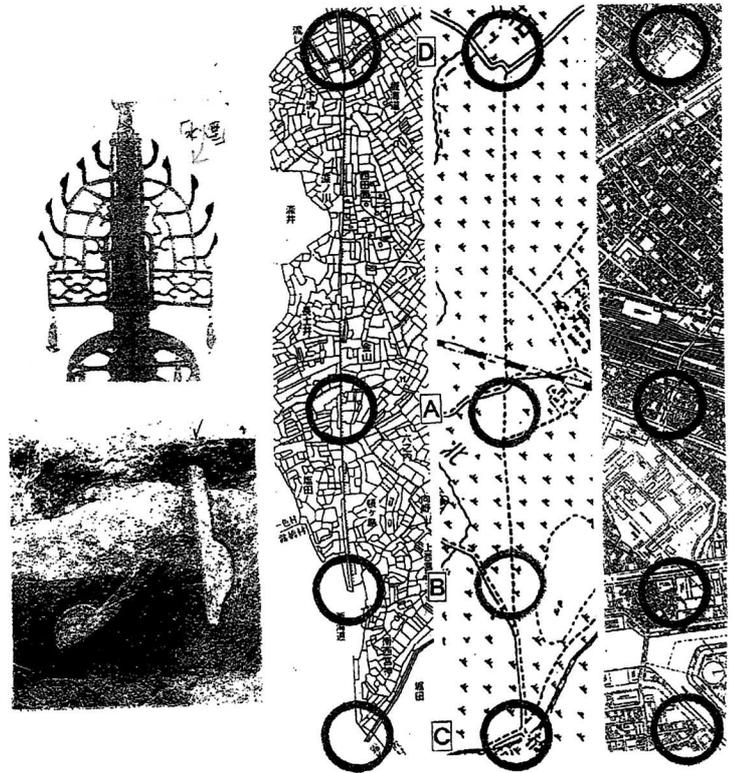
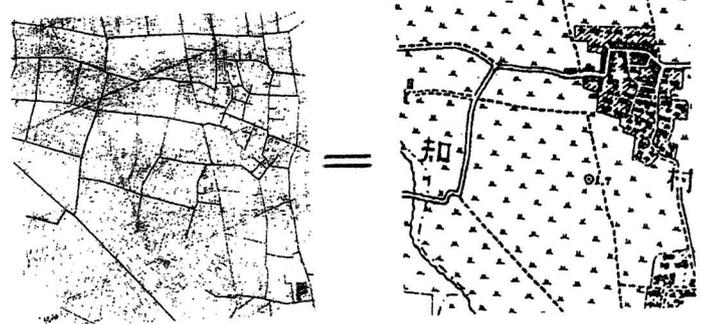
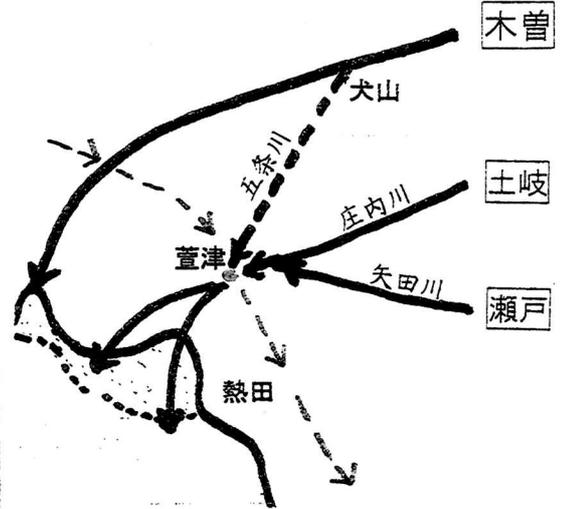
○ 残っていた道路 … 斜めになった道を

- A 九重町：黄金インター出口
- B 月島町：中川運河右岸の工場の間
- C 横堀町：山王通の西の起点

⑤ 直線の目標物の発見!?

- ・ B地点で道路方向に金山高層ホテルが
- ・ 金山には、七世紀中頃の「元興寺」遺跡
- ・ 9世紀に尾張国分寺の代替になった寺
- ・ 遺跡から、塔の「水煙」が出土
- ・ 水煙は、砂地に突き刺さって発見された
- ・ 分析の結果、30m以上から落下したと

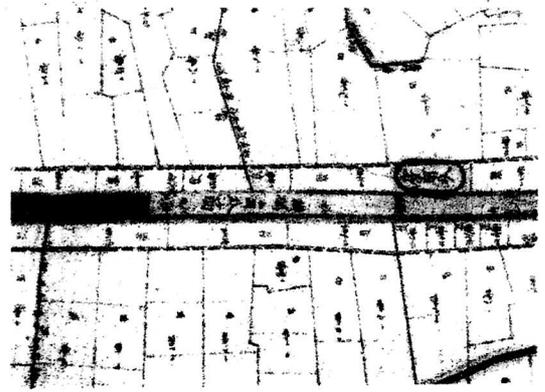
応造浮橋布施屋併置渡船事
一、加増渡船十六艘
尾張美濃両国堺俣河四艘、元二艘、今加二艘。尾張國草津渡二艘、元一艘、今加一艘。參河國鮪海矢作兩河各四艘、元各二艘、今加各二艘。駿河國阿倍河三艘、元一艘、今加二艘。中略。
右河等崖岸広遠不得造橋、仍増伴船。



⑥ 南部の直線の発見

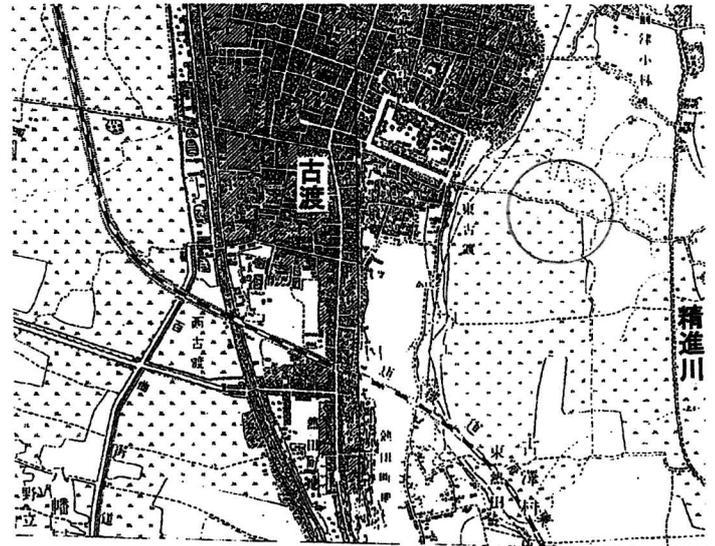
○ 不思議な土地区画

- ・ 露橋付近の明治の地籍図に変な区画が
- ・ 現在の山王通の西端部
- ・ 用水「三間杵」があったとされる
- ・ 3本の両側は側道ではなく畑地である
- ・ なぜこんな地籍が？ (3 × 3間 ≒ 16m)



○ 現存する道路？

- ・ 東別院交差点東 100mに、変わった道が
- ・ 地図を調べると、直線の道の東端になる
- ・ 直線の道は、ここにも残っていた



⑦ 中世史跡を飛び越えて

- ・ 直線を東に追うと御器所台地になる
- ・ 地積図を分析すると、台地の上にも続く
- ・ 特徴は広見池の北端が切れていること
- ・ 中断してまたまっすぐ続く道は要注意
- ・ 中断した所は中世の荒畑西城跡付近
- ・ ということは、この線は古代道路か？

⑧ 石仏の故事

- ・ 石仏は「天平の鬼瓦」が出土した →
- ・ 地名からも古「観音寺」の存在が分かる
- ・ 名古屋城築城石はここからも調達した



石仏の古代の不思議

- 1 天平の鬼瓦が出土した
- 2 地名に「古観音」等が
- 3 瓦窯の出土(国分寺等)
- 4 多数の古墳が散在した
- 5 大量の巨石(名古屋城に)



○ さらに …

⑨ 八事丘陵に

- ・ 瑞穂グラウンドの横に「あゆち水」碑が →
- ・ 根山(中根)、音聞を詠った古い和歌が ↓

「あゆち水」

小活田の年魚道の水を 間無くぞ 人は汲むとふ
時じくぞ 人は飲むとふ

汲む人の間なきがごと 飲む人の時じきがごと

吾妹子に わが恋ふらくは やむ時もなし(3260)

⑩ 島田の遺跡

- ・ 天白島田には、古代陶器片の出る土地が

「根山」 きく袖の露の深さも あるものを

根山のすその そのさおしかの声 慈円

⑪ 白土から上高根

- ・ 白土の峠は 京大足利先生が通過点に想定

「音聞」 いづちなる山にかあらむ 雁がねの

音聞き高く きこゆるかな 躬恒

○ 全区間 通してみると

萱津
↓
露橋
↓
石仏
↓
?
↓
平針
↓
白土
↓
高根
↓
八橋



● おわりに

… 名古屋の「古代」も面白そうだ!

- * 名古屋には、確実に「古代東海道」が通っていた
- * 1300年近く前に「街」ができかけていたのかも → 名古屋は千年以上の歴史ある都市?

<参考文献> ①森・門脇編「旅の古代史」(1999、大巧社)
②梶山勝「古代東海道と両村駅」(2000、名古屋市博物館紀要)
③古代交通研究会編「日本古代道路辞典」(2004、八木書店)